



SDGs探究AWARDS 2022エントリーシー

すべての項目について必ず記入してください

学校名 (複数校のグループはすべての学校)	中京大中京高校
グループ名 (個人エントリーの方は氏名)	今井優希
作品タイトル	みんなが主人公～IT技術で感謝を伝え、社会とつながる～
テーマにした国・地域	日本
着目した課題とその原因	一般企業で働く事が難しい障がい者の方などが、裏の作業的な仕事につくことが多く、社会との関わりが少ないこと。 障がい者の方の賃金が安いことやさまざまな場で平等ではない、格差があること。
根拠となるデータ (課題や原因の根拠がわかる 数値など)	障がい者の方の平均時給は約281円。 これは障がい者の方が、B型事業所という働き方が多いため。A型事業所というのは、事業と契約を結び働いた時間の分の給料が支払われる事が多いが、一方B型事業所では、雇用契約を結ばないため、自由な働き方ができ体調を優先しやすい。半日利用や週に一度だけという働き方もできるので短時間利用から、徐々に体を慣らしながら目標に近づけるというメリットがあるため、就労継続支援B型を利用する障がい者の方が多い。
課題解決のために自分ができるアクション	私ができるアクションとして、障害を持っているという理由で一般企業や、接客業につく事が難しく、裏の作業的な仕事につくことが多く人との関わりがないという方も、平等にスポットライトの当たるような、みんなが主人公となれるような企画です。企画内容は、生産者（障害者の方）を似顔絵で明確にし、商品の裏にQRコードを設置・読み取ることで直接感謝の気持ちを生産者に伝えられる取り組みです。生産者にとっての仕事の活気に繋がると考え、また支援する消費者にとっても、これまで募金箱に寄付したとしても、顔が見えない相手に届いているかもわからなかったような支援から、ITの技術で直接感謝を伝えることができることで自己満足度、新たな出会いを得ることができます。
SDGsとの関連性	労働者して働く障害を持つ方々にとって、社会と繋がることのできる機会、感謝を受け取ることによって、全ての人が平等に輝ける・主人公になれる機会を提供でき、働きがいにも繋がると考える。 Sdgs番号8、10
アクションのために必要なこと (クリアしなければならない壁や条件など)	まずは、地域ごとの繋がりを大切にして、社会と繋がることで社会にできることや働きがいを見出せるような土台となる仕組みづくりが大切だということ。
参考文献 (発表資料をつくるために参考にした文書名やサイトURL)	https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwjgTKK-fH8AhVzm1YBHZxHD6EQFnoECCsQAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.gp-sri.jp%2Freport%2Fdetail031.html&usg=AOvVaw0mKVet257C1ThoYDTjzjgJ https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwjG7K3I-fH8AhUcs1YBHaumBN0QFnoECA8QAQ&url=https%3A%2F%2Ffukuoka-shakyo.or.jp%2Fshogai.html&usg=AOvVaw35SctVeqcjekXxsENdlOZD

PR文

(400字以内)

(発表内容やPRポイントを
簡単にご紹介ください)・

私には、夢があります。誰もが、主人公として平等に輝ける社会の実現です。その先に、障害者の方が生き生きと働き、障害の有無関係なく協働できるダイバーシティーな社会を目指しています。きっかけは高校1年生の際に、障害者の就労支援を行っているカフェのインターンを経験したことです。そこには障害をもつ方が懸命に働いている姿がありましたが、裏の作業的な仕事が多く、社会との繋がりが無い事実をそこで知りました。社会との繋がりが無い、それは障害をもつ彼女たち自身が閉じ困ってしまい、仕事へのやる気を失ってしまうのではないかと。なぜ、障害者は労働賃金が安いのか。私は様々な点で疑問をもち、もっと社会との繋がりを持ち、障害の有無関係なく、一人間として感謝をされる社会であってほしいと考えプロジェクトを実行しました。プロジェクトの目的は、感謝を通じて社会と繋がることで、障害者の人々を含め平等に評価される社会を実現することです。これは障害者だけでなく、今後外国人労働者など多様化する日本社会のなかでも大切な視点だと考えます。プロジェクト内容は、生産者（障害者）を似顔絵で明確にし、商品の裏にQRコードを設置・読み取ることで直接感謝の気持ちを生産者に伝えられる取り組みです。労働する障害者の方に対して、人から感謝されるという気持ち・主人公になれる機会を提供できると共に直接的な繋がりを通じて、生産者にとってまた消費者にとってもハッピーな気持ちと新しい支援の形を実現できます。実現のために、これまで、障害者の方々との協働や10人以上のヒアリング、実際に障害福祉を営んでいる企業に協力してもらいイベント実施など、探求を重ねてきました。活動をする上で、障害の方に対して、私達の固定概念で決めつけていることも多いなと気付くことがいくつかありました。暮らしてきた環境も違う、考えも違う、私はやりたいことを自由にやれて身体も動く。そんな中で、私が勝手に「障害」ということへのイメージを押し付けて可哀想だと思いこんで、行動に移す。それがいかに自己満足であり、寄り添うことが必要だということに気付かされました。1回限りでは全く意味がなく持続性が大切であり、信頼関係を築く為にはその分自分も学ぶ必要があると感じました。今後も、直接的に自分の気持ちで左右されるのではなくて、客観的に見ることで自分が固定概念に左右されていないか確かめながら慎重に活動を続けていき、私の夢である誰もが、主人公として平等に輝ける社会を実現したいです。

○エントリー方法の詳細は、webサイトに記載の「エントリーです」をご参照ください。